

野雞郷の総社(続・野介庄の神宿)

平成三〇年十一月号の広報で「瀬戸の〈神宿〉」に総社があり、野介庄内三四カ村の神輿が集まって祭祀を行っていた」という地元の言い伝えをもとに、神宿は総社(神社)というより御旅所のような場所ではなかったかと推定しましたが、その後新たな関連資料を確認しましたので、これを元に続編という形でお話しいたします。

「美作國百十二社記」は、古代に編纂された美作備前風土記(現存しない)から美作国の主な神社や各郡郷の総社・一宮・二宮など総計一二二社を抜き書きしたものとされる

資料です。弘治二年(一五五六)に権大宮司によってまとめられたとされますが、後世に加筆された可能性もあり、内容については検討の余地がある資料ですが、これに基づけば、下小座に能雞郷三四村(鏡野町域の小座より北の吉井川流域あたり)の総社が存在したとされています。『鏡野町史』民俗編では「野介庄内三四カ村」となっていましたので、十一月号の広報で中世の在地領主・斎藤氏の支配領域と推定したのですが、実はこれは古代の「野雞郷三四カ村」の誤りだったようです。ただ、この総社は『作陽誌』にも



惣道付近(小座)



加茂神社と崇道天皇御陵(津山市加茂町)



宗道神社(津山市鍛冶町)

記述がないため、江戸時代頃には衰退し、小さな神社となっていた可能性もあるのですが、『鏡野町史』通史編によれば、養野の泉宮神社の明治時代末の書類の中に「野雞郷総社今崇堂ト云フ、小座村二座ス」とあり、野雞郷の総社は、当時は崇堂となっていたようです。崇堂とは「崇道」「総道」「惣道」「宗道」とも表記し、本来は平安時代の桓武天皇の弟で、無実の罪で亡くなった崇道天皇(早良親王)を祀る神社です。隣では津山市加茂町に崇道天皇がこの地で亡くなったという伝説と共に加茂神社の祭神としても祀られているのをはじめ、山陽地域各地に「さうどう」「すどう」と名のつく神社があり、崇道信仰が盛んであったことがうかがわれます。小座には旧国道の交差点付近から要田川に沿った北側一帯に「惣道」という小字がありますので、かつてこの辺りに崇堂があったことが想像できます。

考える説もあります。ただ、県内の崇道信仰は、崇道天皇よりもスサノオノミコト(素戔嗚命)との結びつきが指摘され、加茂神社も祭神は崇道天皇としながらも『東作誌』(一九世紀前半成立)には「素戔嗚命を惣道と称すること神道者流の伝ふる所なり」とありますし、津山市鍛冶町にある宗道神社の祭神も素戔嗚命であるように、「惣道」と称する素戔嗚命と崇道天皇が混同して祀られるようになった可能性もあります。

野雞郷の総社・惣道の成り立ちについては、現段階ではわかりません。共通する「さう」の読みが何か手がかかりとなるのではないかとも思いますが、ここでは推測の域を出ませんので、また新たな資料の発見を待ちたいところです。

参考…『吉備文庫』第三輯『鏡野町史』『加茂町史』『吉備地方文化研究』第十五号、『新訂訳文作陽誌』

広報かがみの3月号の記事において、左記のとおり誤りがありました。
棟札の文面1行目
(誤) 戌寅
(正) 戌寅
訂正してお詫びします。

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733